



# 株式会社 田中家石材

全優店  
全国優良石材店

## 田中家通信

発行/田中家石材  
彦根市高宮町108-1 TEL.0749-24-2789

VOL.11

### お盆には お墓参りへ

お盆には、みなさんお墓参りをされます。

一般的にはお盆、お彼岸、お正月に参られる方が多いようです。しかし、私ども石工、大工などいわゆる職人と呼ばれる者は先々代、先代の頃まで、月に2度、1日と15日は休みでした。今と比べて少ない休みですが、なぜ1日と15日は休みなのかと申しますと、その日は神仏の日として朝から氏神さんに参拝し、お仏壇に手を合わせ、お墓掃除をして、また、先祖に手を合わす。その為だけに親方、旦那さんは職人、奉公人を休ませました。

このことは、近江商人の間でも行われており、それだけ日々の生活の中で先祖供養を大切にしていたといえます。

お墓、お仏壇というのは、それぞれの「家」という木の「根っこ」だと思えます。

お墓を建て、お仏壇を安置するのは、その「家」の「苗木」を植えることです。そして、お参りは「木」や「苗木」に水をあげることだと思えます。だから、お墓参りはお盆、お彼岸だけでなく、せめて月初めの1日にもお参りしていただきたいものだと思います。



### お焼香の仕方

お焼香は焼香台へ進み出て行う場合と、自分の席で行う「回し焼香」の2通りがあります。

お線香の本数、あげ方、焼香の仕方などは宗派により異なります。

一般的な作法として、自分の順番が来たら、施主に一礼して焼香台の前進み、合掌し礼拝します。右手で香をつまんで額のところまで上げます。

浄土真宗では上まで上げません。香炉に静かにくべて、数珠を手に合掌し礼拝します。最後に施主に一礼して席に戻ります。



### 付き合いの心得

「上善は水の若(こと)し。水善く万物を利して争わず。衆人の悪(にく)む所に処(お)る。故に道に幾(ちか)し。」

最上の善は、たとえてみると水のよくなものである。水は万物に利益を与えていながら、円い器に入れば円くなり、四角な器に入れば四角になるというふうになり、けつして他と争わない。そして、他の多くの人がびとの嫌がる低い地位に身を置く。だからこそ、水こそ道にちかい存在であるといえる。

老子 易性第八より

### 土用の丑の日に 鰻を食べる理由

体力が落ちて、食が細りがちな夏の土用に鰻を食べるといえるのは、理にかなった風習です。ところが、この年中行事には、仕掛け人がいたというのは有名な話。江戸時代の蘭学者・平賀源内が近所の鰻屋に頼まれて「本日、丑の日」と張り紙を書いたことにより、土用の丑の日に鰻を食べるのが広まったきっかけだったと言われています。

夏場、鰻が売れず困っていた鰻屋の相談とはいえ、なぜ丑の日なのでしょう？それは、もともと、丑の日には「う」のつくものを食べると病気になるという言い伝えがあったからです。

そのため、「う」のつく食べ物として、鰻以外にも梅干や瓜、うどんなどを食べる地域もあります。



### 覚えておきたい 言葉の意味

#### あみだくじ(阿弥陀くじ)

くじは昔から存在したようで、室町時代に「阿弥陀の光」と呼ばれたくじが存在した。

この形状は放射線状に線がひかれ、阿弥陀様の後光に似ていることから呼ばれたという。

現在では線は縦平行に引くようになったが、元々はこの「阿弥陀の光」くじだと言われる。

#### 三途の川

三途の川とは、死んで七日目に渡るという冥途にある川。三瀬川、葬頭河、渡り川ともいう。

三途の川には流れの速度が異なる三つの瀬があり、生前の業(ごう)によって「善人は橋」「軽罪の者は浅瀬」「重罪の者は流れの速い深み」を渡ることから、「三つの道」の意味で「三途の川」や「三瀬川」と呼ばれるようになったといわれる。しかし、「三途」とは、本来は死者が悪業を報いるために逝くという三悪道のことを意味していたため、三悪道の考えから「善人」を含んだ「三途の川」が生まれたと考えられる。

また、この三悪道の「三途」は「地獄道」「餓鬼道」「畜生道」からなり、地獄道は火に焼かれることから「火途」、餓鬼道は刀で虐められることから「刀途」、畜生道は互いに食い合うことから「血途」と呼ばれる。



### 田中家石材編集部より



滋賀県彦根市にある彦根城の築城400年の記念イベント「国宝・彦根城築城400年祭」のイメージキャラクター。

彦根藩2代目藩主井伊直孝公を手招きして雷雨から救ったという招き猫の伝承を元に、井伊由来の赤備えの兜をかぶった猫をモデルにしています。

愛称の「ひこにゃん」は、全国よりお寄せいただいた1167点のなかから選ばれた名前で、彦根の「彦」と猫の鳴き声をかけあわせ、子どもから高齢者の方まで皆様に親しんでもらえるようにひらがなにしました。



### しょうしんげ 正真偈解説

によらいしよいこうしゅつせ

如来所以興出世

ゆいせみだほんがんかい  
唯説弥陀本願海

(思えば、お釈迦さまがこの世に出現なさった目的は、ただ阿弥陀さまがすべての人々を救うという大海のような本願を説くためだったのです)